

I. 各問題の選択枝のうちから解答を一つ選びなさい。

1) 生理的老化の4原則に含まれないのはどれか。

1. 普遍性
2. 内在性
3. 進行性
4. 可逆性
5. 有害性

正解 4.

2) 真核生物の染色体末端を保護する構造を何というか。

1. アポトーシス
2. テロメア
3. アミロイド
4. セントロメア
5. プロテアソーム

正解 2.

3) 高齢者の疾患の特徴として誤っているのはどれか。

1. 複数の疾患を抱えている。
2. 多臓器障害を来しやすい。
3. 症状は典型的な場合が多い。
4. 要介護状態に移行しやすい。
5. 医原性疾患が増加する。

正解 3.

4) 高齢者が要介護にいたる原因疾患で最も多いのはどれか。

1. 脳血管障害
2. 骨折・転倒
3. 関節疾患
4. うつ
5. 交通事故

正解 1.

5) 以下の老年症候群の症候のうち、75歳以上の後期高齢者に急増し、ADL低下と密接な関連を持つものはどれか。

1. 頭痛
2. 息切れ

3. 肥満

4. 不眠

5. 椎体骨折

正解 5.

6) 高齢者の失神について正しいのはどれか。

1. ほとんどが脳血管障害による。
2. ほとんどがてんかん発作である。
3. ほとんど原因が判明する。
4. TIAと病態は同じである。
5. Adams-Stokes発作は不整脈が原因である。

正解 5.

7) せん妄について誤っているのはどれか。

1. 可逆性である。
2. 意識障害の一型である。
3. 興奮過覚醒型のみである。
4. 薬物が原因となっていることがある。
5. 高齢者では遷延しやすい。

正解 3.

8) 「認知症」と比べ、「うつ」の特徴で正しいのはどれか。

1. 物忘れの自覚がない。
2. 質問に対し、作話がみられる。
3. 思考内容が他罰的である。
4. 失見当識の程度の割にはADL障害が強い。
5. 気分は比較的安定している。

正解 4.

9) 軽度認知機能障害(MCI)について誤っているものはどれか。

1. 本人または家族による物忘れの訴えがある。
2. 加齢の影響だけでは説明できない記憶障害がある。
3. 日常生活能力は自立している。
4. 全般的な認知機能は正常である。
5. その後1年間での認知症への移行頻度は、同世代の健常者と変わりはない。

正解 5.

1 0) 褥瘡について誤っているのはどれか。

1. 皮膚局所への持続的圧迫による虚血性の皮膚壊死である。
2. 低栄養も発生要因の一つである。
3. 創面色調での病期分類に基づくと、黒色期→赤色期→黄色期→白色期の順に治癒する。
4. DESIGN-R 分類での、P はポケット形成を意味する。
5. リハビリテーションの介入もその予防・治療において大切である。

正解 3.

1 1) 加齢に伴う筋肉量の減少と筋力の低下を何というか。

1. サルコペニア
2. カヘキシア
3. ホメオスターシス
4. ディスディアドキネシス
5. ジストニア

正解 1.

1 2) 以下のうち AWGS によるサルコペニアの診断基準で測定するものはどれか。

1. 握力
2. 3m TUG
3. 骨密度
4. 開眼片脚立位時間
5. ファンクショナルリーチ

正解 1.

1 3) 関節軟骨および椎間板髄核の特徴として誤っているものはどれか。

1. 水分を豊富に含む。
2. II型コラーゲンを多く含む。
3. プロテオグリカンを多く含む。
4. 血管や神経の分布が豊富である。
5. 修復能力が低い。

正解 4.

1 4) 大腿骨頸部骨折について誤っているのはどれか。

1. 男性より女性に多い。

2. 原因として転倒が最も多い。

3. 腫脹や皮下出血は少ない。
4. 重症度の判定に Kellgren & Lawrence 分類を用いる。
5. 保存的治療による骨癒合は得られにくい。

正解 4.

1 5) 高齢者の脊椎圧迫骨折について誤っているのはどれか。

1. 骨粗鬆症を基盤とする骨折の中で最も高頻度である。
2. ほとんどの症例で急性の疼痛を訴える。
3. 逆流性食道炎の原因になることがある。
4. 姿勢・体型上の問題からひきこもりの原因になることがある。
5. 膀胱直腸障害を引き起こすことがある。

正解 2.

1 6) Fried によるフレイルの定義に含まれないものはどれか。

1. 体重減少
2. 認知機能の低下
3. 日常生活活動量の減少
4. 身体能力 (歩行速度) の減弱
5. 筋力 (握力) の低下

正解 2.

1 7) サルコペニア、カヘキシア、フレイルの関係について誤っているのはどれか。

1. ほとんどのカヘキシア患者はフレイルである。
2. すべてのフレイル高齢者がカヘキシアとは限らない。
3. サルコペニアのなかにはフレイル高齢者もいる。
4. サルコペニアのほとんどはカヘキシアである。
5. カヘキシアのほとんどはサルコペニアである。

正解 4.

18) 高齢者における外科手術例について誤っているのはどれか。

1. 診断が遅れやすい。
2. 器官・臓器の予備能が少ない。
3. 高齢を理由に手術禁忌とはならない。
4. 術後せん妄を起ししやすい。
5. 救急手術でも待機手術の予後とあまり変わらない。

正解 5.

19) 特発性正常圧水頭症について誤っているのはどれか。

1. 高齢者に多い。
2. 3主徴として、運動麻痺、認知症、尿失禁があげられる。
3. 診断に tap test が用いられる。
4. Evans index は、脳室拡大の評価に用いられる。
5. 治療は、シャント術である。

正解 2.

20) 高齢者の消化器疾患について誤っているのはどれか。

1. 高齢者の胃癌では、若年者と比べて分化型の癌が多い。
2. 大腸癌の手術では、“高齢である”という理由によって、根治性を落とした手術をする必要はない。
3. 高齢者の原発性肝癌では、HB抗原陽性率や肝硬変合併率が若年者と比べて高い。
4. 高齢者の無症状の胆石症では特に治療の必要はないことが多い。
5. 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) は、通常型膵癌より予後が良い。

正解 3.

II. 以下の文章が正しいならば○、誤りならば×と記載しなさい。

- 1) 高齢者が“しびれ”を訴える場合、すべて感覚障害を意味する。×
- 2) 高齢者で初発する片頭痛は多い。×
- 3) 高齢者では若年者と比べ、REM睡眠の総量は増加している。×
- 4) 認知症性老人の日常生活自立度判定基準において、ランクIVとは、“著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする”状態を指す。×
- 5) 高齢者では若年者と比べ、廃用症候群は発生しやすく、また進行が速い。○
- 6) 入院入所高齢者における尿失禁の原因としては、泌尿器系の器質的障害よりも機能的なものの方が多い。○
- 7) 高齢者の嚥下障害の特徴として、不顕性誤嚥がみられる。○
- 8) 本邦における変形性膝関節症は、二次性よりも一次性関節症が多い。○
- 9) 下肢閉塞性動脈硬化症 (ASO) の症状分類として、Fontaine分類がある。○
- 10) 高齢者での手術に伴う偶発症の要因としては、「術前合併症」や「手術そのもの」よりも「麻酔管理」の方が問題となることが多い。×